

▶ Commvault を使用して リカバリの可能性を 高める現実的な方法

迅速かつ効率的なリカバリでビジネスの継続性を保持する

目標は、ビジネスに不可欠なアプリケーション、データベース、仮想マシン (VM)、サーバー、データの可用性を高めることです。そして、アクセスできない場合、または中断した場合、重要なのはリカバリのスピードです。そのスピードは、時間や日単位ではなく、分、あるいは秒単位で行われることが要求されます。バックアップとリカバリ戦略に、対応できる範囲が限られたポイントソリューションや、今日の最新技術がサポートされていない従来型のアプローチ、または時間のかかる複雑な手動プロセスが含まれていると、災害発生に備えができていないとは言えません。

ディザスタリカバリやデータ保護ソリューションの多くが、システム停止後の迅速な復旧が可能なリカバリ機能を提供すると謳っています。しかし実際に災害が発生したとき、ビジネスワークロードを本当に保護、リストアできるソリューションはどれなのでしょう？



データ管理分野で 20 年以上の経験を誇る Commvault は、常に化する、お客様が実際に必要としている要件を満たすために、バックアップとリカバリソリューションを強化し続けています。Commvault® ソフトウェアを用いることで、実際のディザスタリカバリシナリオの作成とテストを合理化、自動化し、コスト、労力、リスクを削減することを可能にします。単一の直感的な Web ベースのインターフェースで、オンプレミスとクラウドの両方のあらゆるディザスタリカバリニーズを簡単に管理することができます。

Commvault のディザスタリカバリサポートは柔軟で、物理サーバー、ストレージアレイ、ハイパーバイザー、アプリケーション、データベース、クラウド環境、さらにはビッグデータプラットフォームも対象としています。Commvault のソフトウェアを使用すれば、さまざまなクラウドプロバイダー間でリカバリを実行することもできます。

ワークロードをクラウドへ、クラウドから、クラウド間で移動したり、またはデータセンターに戻す必要がある場合、Commvault ソフトウェアなら、組織にとって適切なリカバリ方法を柔軟に選択できます。

▶ エンドポイントとサーバー間でのリカバリ

IT 停止を引き起こす要因として、停電の次に大きな原因は、サイバー攻撃です。ランサムウェアなどのサイバー攻撃は、サーバーとエンドポイント（ノート PC、モバイルデバイス、さらには BYOD など）の両方をターゲットにします。Commvault ソフトウェアは異常なファイル アクティビティを自動検出して攻撃に遭うリスクを低減し、複数のアプローチで IT 環境を迅速にリカバリします。

従来型のディザスタリカバリソリューションは、エンドポイントまたはサーバーどちらかのリカバリに限定されています。しかし Commvault は、包括的なリカバリソリューションの必要性を理解しています。しかも、同一のインターフェースでエンドポイント、サーバー、アプリケーションのリカバリが実行できるのは、Commvault ソフトウェアのみです。Commvault があれば、IT 環境を複数の手法で保護することができます。

リスクの低減

- Commvault データベースとディスク ライブラリへのアクセスを堅牢化
- 不正アクセス防止のため暗号化するファイルとフォルダを選択可能
- 疑わしい書き込みを防止するために、ディスク マウント パスの監視とブロック

異常の検出

- 異常なファイル変更を監視し、アラートを上げ、ランサムウェアを検出
- ランサムウェアを罠にかけるため、おとりの「ハニーポット」ファイルを置き、ランサムウェアを罠にかけてアラートを生成
- 異常なプロセス（例えば、読み込みが多すぎるなど）にフラグを立てる

保護

- 低コストのディスク ストレージからの、必要に応じたデータのアーカイブと非アクティブなデータ、データベース、VM のリストア
- エンドポイント、物理、仮想、データベース、SaaS、クラウドなど、データがどこにあってもバックアップ
- サイト全体の災害に対する自動化されたフェイルオーバー ソリューションによるディザスタリカバリの実行、優れたコスト効率実現のためにクラウドまたは複数のレプリケーション オプションを使用

アプリケーションと整合性のある
データ保護のための 5 つのステップ

アプリケーションの所有者は、災害発生時にアプリケーションレベルでデータをリカバリできることを知っておく必要があります。

今すぐ読む



commvault.com/2E9a0EB

リカバリ

- 保護したバックアップ ファイル (暗号化、オンプレミス、クラウド、SaaS) を使用したリカバリ
- セルフサービスで、ポイントインタイム リカバリ リストアの実現
- エンドポイント (ノート PC など)、サーバー、アプリケーションのリストア

▶ 現実の世界のリカバリ

日常的に IT 環境を保護するために、どのような機能を実際に使用しますか?実際に災害が起きた際、リカバリに必要な機能は何でしょうか?市場にはさまざまなソリューションが存在します。しかしリカバリ要件は、お客様のニーズに合ったインフラストラクチャ、プロセス、予算でなければなりません。Commvault はひとつの限られた方法に縛るのではなく、適切なデータの保護をあなたの予算に合わせたコストで行えるよう選択肢を提供します。

複数のレプリケーションとリカバリ オプション

Commvault を使用すると、データセンター内のさまざまなアプリケーションとデータベース階層へ、ディザスタ リカバリのサービス レベル合意書 (SLA) と目標復旧時間/目標復旧地点 (RTO/RPO) を適切に割り当てることができます。これにより、リカバリコストを各階層のビジネス価値に適切に合わせることができます。

ライブ シンク ダイレクト: ディザスタ リカバリ サイトの災害対策用仮想マシン イメージまたはスナップショット イメージを使用して、迅速にリストアします (RTO 15分以内)。

ライブ シンク (アレイベース): ストレージ ハードウェア スナップショットをディザスタ リカバリ サイトにバックアップ/レプリケートし、災害対策用イメージを使用して迅速にリカバリします。

ライブ シンク: ディザスタ リカバリ サイトにデータをバックアップ/レプリケートし、災害対策用イメージを使用して迅速にリカバリします。

リモート バックアップ: フル バックアップ コピーをディザスタ リカバリ サイトに移動して、迅速なリストアを確実に実行できるようにします。ティア 2 またはティア 3 アプリケーションには、低コストのディザスタ リカバリとして使用できます。

DASH (Deduplication Accelerated Streaming Hash) コピー: データを重複排除してディザスタ リカバリ サイトに移動し、ティア 2 またはティア 3 アプリケーションのストレージ コストを削減します。

リモート アーカイブ: アーカイブを、隔離、暗号化することで、ランサムウェア リカバリ向けの低コスト データ保護ソリューションとして使用できます。

さまざまなプラットフォームを保護*

Commvault は、下記のような業界をリードする連携*により、お客様のアーカイブ、バックアップ、ディザスタ リカバリ シナリオに応じた複雑な環境にも対応可能です。

クラウドと SaaS サポート: AWS、Azure、Oracle、Office365、Salesforce、Google Mail、Google Drive、Microsoft OneDrive、その他クラウドストレージ、さらには Amazon S3 互換オブジェクト ベース ストレージ、OpenStack Object Storage ベンダーのストレージを選択可能

ハイパーバイザー サポート: VMware、Microsoft Hyper-V、Citrix XenServer、OpenStack、RedHat、Oracle など

アプリケーション、ファイル システム、データベース: 24 以上のアプリケーション、ファイル システム、データベースをサポート

スナップショット管理サポート: Dell EMC、IBM、Hitachi Vantara、HPE、Huawei、NEC、NetApp、Nutanix、Pure Storage など 30 のスナップショット エンジン

* <https://www.commvault.com/commvault-supported-technologies>

▶ シンプルな自動リカバリ オペレーション

災害時やディザスタリカバリテストにおいてディザスタリカバリフェイルオーバープロセスの実行を成功させるには、多くのシステムの連携が必要になります。また、予期しない災害時にはすべてのチームメンバーが対応可能とは限らないので、シンプルかつ自動化されたリカバリアプローチが不可欠です。

Commvault ソフトウェアは、シンプルなりカバリオペレーションだけでなく、さらに一歩進んだ、災害時に本当に必要なリカバリを優先順位付けできるオプションも提供します。

災害時に本当に必要なものをリカバリ

Commvault ソフトウェアは、目標復旧時間の達成のために、シンプルかつ自動化されたリカバリオペレーションを提供します。

計画的フェイルオーバー: いつ災害が発生しても、最新のデータを確実に取得できるようにします。

計画外フェイルオーバー: 予期しない災害時にフェイルオーバーの速さ (RTO) が最優先の場合に使用します。

ライブリカバリ: 仮想マシンを素早く起動して実行する必要がある場合に使用します。バックアップの妥当性を検証し、ディザスタリカバリの準備ができていることを確認するためにも使用できます。

ライブブラウズ: バックアップデータ、スナップショット、PST ファイル、クラウドデータ、非バックアップデータからファイルとフォルダをブラウズ、ダウンロード、アップロードできます。Web やモバイル デバイスからデータにアクセスできます。

ライブマウント: バックアップから直接仮想マシンを実行し、ゲスト ファイルをリストアすることなく仮想マシン内のデータにアクセスするために使用します。ディザスタリカバリへの準備状況を検証し、同時に仮想マシン内のコンテンツを検証することもできます。

フェイルバック: 元の本番サイトまたは新しい本番サイトに戻り、最新データが更新されていることを確認します。

フェイルオーバーグループ: 仮想マシングループのディザスタリカバリオペレーションをセットアップ、監視します。ライブシンクレプリケーション、計画的フェイルオーバー、計画外フェイルオーバー、フェイルバック、起動テストオペレーションを実行できます。

ワークフロー: ワンクリックで実行できる、個別の手順を作成します。Commvault のパーソナライズ チームが個別のワークフローの作成を支援します。あるいは、サンプルワークフローをダウンロードして自身で作成することもできます。このワークフローを用いることで、災害時にも複雑な手順を容易に実行できるようになります。

ランサムウェアからの保護とリカバリのための 4 つの方法

ランサムウェア攻撃に対して自信を持って保護とリカバリを実行し、重要なデータへのアクセスを維持するために、4 つのベストプラクティスを検討してみてください。

今すぐ読む



[commvau.lt/2qpLA2E](https://commvault.com/2qpLA2E)

ディザスタリカバリプロセスを確実に成功させる

Commvault ソフトウェアは、多くのディザスタリカバリテストとディザスタリカバリへの準備検証機能を提供しており、データの安全性を確実にし、リカバリへの準備をサポートしています。

仮想マシンの起動テスト: ディザスタリカバリのセットアップとプロセスを素早くテストします。

ヴァーチャルラボと開発/テスト: ディザスタリカバリテストや、バックアップまたはレプリケーションジョブからの仮想マシングループのテストに使用します。

ライブマウント、ライブブラウズ、ライブリカバリ: 仮想マシンとそのデータの有効性を迅速かつ簡単に検証します。

保護対象の IT 環境全体で何が起きているかを把握する

Commvault は、サーバー、仮想マシン、クラウド、アプリケーション、エンドポイントデバイスのバックアップとリカバリを、直感的なユーザーインターフェースによってシンプルに実行できます。この単一ソリューションによって、場所、アプリケーション、ストレージタイプにかかわらず、IT 環境全体のデータの特定、移動、管理、リカバリを迅速に実行できます。

Commvault ソフトウェアは、日々進化する IT 環境を保護するために、さまざまな物理サーバー、ストレージアレイ、ハイパーバイザー、アプリケーション、データベース、クラウド環境、さらにはビッグデータプラットフォームに対応しています。これにより、データがどこにあっても安全な保護と迅速なリストアを可能にする、シンプルで費用対効果の高い最新のソリューションを提供します。

▶ [オンプレミスとクラウドにおける包括的なディザスタリカバリの詳細を見る。](https://www.commvault.com/disaster-recovery)
[commvault.com/disaster-recovery](https://www.commvault.com/disaster-recovery) にアクセスしてください。

© 2019 Commvault Systems, Inc. All rights reserved. Commvault, Commvault とロゴ、[C hexagon]のロゴ、Commvault Systems, Commvault OnePass, CommServe, CommCell, IntelliSnap, Commvault Edge, および Edge Drive は、Commvault Systems, Inc. の商標または登録商標です。その他すべてのサードパーティのブランド、製品、サービス名、商標、または登録サービスマークは、それぞれの所有者の所有物であり、これらの所有者の製品またはサービスを識別するために使用されます。すべての記載は通知なしに変更される場合があります。

COMMVAULT 



COMMVAULT SYSTEMS JAPAN株式会社 〒141-6008 東京都品川区大崎2-1-1 THINKPARK TOWER 8F

WWW.COMMVAULT.COM | PHONE: 03-5747-9610 | JPSALES@COMMVAULT.COM

© 2019 COMMVAULT SYSTEMS, INC. ALL RIGHTS RESERVED.